

平成28年度 登別市下水道事業報告書

1 概 況

(1) 総括事項

本年度は、資本費の高止まりや企業債元金償還金の増嵩などにより、引き続き厳しい経営状況に置かれました。特に、収入面を見ると、本年度に関しては、調定件数の伸びにより使用料収入は僅かに増加したものの、年間有収水量は再び減少に転じるなど、経営の先行きに不安を抱かざるを得ない状況にあります。

こうした中、本年度、登別市下水道事業では、下水道事業経営戦略を策定し、中長期的な経営の見通しを示すとともに、使用料改定の検討など、経営安定化に向けた取組を進めました。一方、事業実施にあたっては、維持管理経費等の縮減に努めることはもちろん、ライフサイクルコストを低減する観点から、施設の効率的な維持管理に資する施設整備事業を重点化するなど、公営企業としての経済性を最大限発揮し、効率的な経営に努めました。

また、経営の効率性を確保することに留意しながらも、汚水の安定的処理やこれによる公共水域の保全、浸水防除など、下水道事業の公共的使命を果たすため、汚水管渠の改築更新や雨水管渠の新設などを着実に実施しました。

ア 業務状況

年間有収水量は、公共下水道事業で前年度に比べ13,411m³減少の3,199,961m³、個別排水処理施設事業で前年度に比べ141m³減少の13,778m³となりました。

また、接続戸数（浄化槽設置基数）は、公共下水道事業で前年度に比べ207戸増加の20,467戸、個別排水処理施設事業で前年度に比べ2基増加の68基となりました。

イ 建設改良事業

管渠建設費においては、中央町地区の雨水浸水対策として、鉄南1号幹線雨水管渠新設工事を実施したほか、汚水管渠については、既設管のたるみが著しい常盤町地区の汚水管渠改築更新工事などを行いました。

また、処理場建設費においては、主要設備機器の老朽化が進んでいることから、下水道機能の停止を未然に防止するとともに、ライフサイクルコストの最小化を図るため、登別市下水道長寿命化計画に基づき、水処理設備の更新工事などを実施しました。

ウ 施設の現況

本年度末における施設の現況は、次のとおりです。

- ・ 終末処理場 若山浄化センター
(施設構成) ポンプ棟、オキシデーションディッチ、最終沈澱池
- ・ ポンプ場 塩素混和池、汚泥処理棟、送風機棟
- ・ 管渠 3カ所 (若草ポンプ場、幌別ポンプ場、登別ポンプ場)
汚水管 延長 252,963.24m
雨水管 延長 3,353.49m

エ 財政状況

(収益的収支)

収入は、営業収益6億6,122万8,947円(うち使用料収入5億8,005万8,990円)、営業外収益11億106万3,181円、特別利益3万3,306円の合計17億6,232万5,434円となりました。

これに対し支出は、営業費用14億1,651万8,977円、営業外費用3億5,229万4,203円、特別損失20万3,243円の合計17億6,901万6,423円となり、収支差引による当期純損失は669万989円となりました。

(資本的収支)

収入は、企業債収入7億5,310万円、負担金及び分担金収入1,542万4,236円、補助金収入3億2,153万2,896円の合計10億9,005万7,132円となりました。

これに対し支出は、建設改良費4億4,595万4,604円、企業債償還金11億9,990万8,232円の合計16億4,586万2,836円となり、収支差引による不足額は、5億5,580万5,704円となりました。

この不足額につきましては、損益勘定留保資金などで補てんしました。